2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	会話・発音(上級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担 当 教 員	中村 絵	実務経験とその関連資格	2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。		

《授業科目における学習内容》

進学後や就職後に必要な口頭発表ができるようになる。そのために必要なまとまった内容を聞く、伝える、そしてそのために必要な表現も学ぶ。卒業研究・課題研究発表会の参加に向けて、考える力も養う。

《成績評価の方法と基準》

a. 素点(定期試験):70%
b. 出席評価点　　:20%
c. 平常評価点　　:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『日本語上級話者への道』(スリーエーネットワーク)、聴解・発表ワークブック(スリーエーネットワーク)
シャドーイング『日本語を話そう』中上級編(くろしお出版)から抜粋、オリジナルハンドアウト使用

《授業外における学習方法》

普段から日本語で考え、日本語で話そうという気持ちを持ってください。どんな言葉の聞き取りが苦手なのか、どんなタイプの言葉をよく間違えるのか、自分の弱点を知っておくことは大切です。

《履修に当たっての留意点》

後半は将来の就職を考え、面接練習も行う。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 発音/オリエンテーション	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	まとまった話を聞きメモを取る／構成の確認		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 発音(シャドーイング)/献血について	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	パソコンのクラスで発表した「献血について」を使用して発表の準備をする		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 話(シャドーイング)/献血について	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習 グループで発表練習
		各コマにおける授業予定	グループで発表準備		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話(シャドーイング)/献血について	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習 グループで発表練習
		各コマにおける授業予定	発表		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話(シャドーイング)/プレゼンテーション(1)	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	言葉と文化／不登校／生活習慣病について		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話（シャドーイング）/プレゼンテーション（2）	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	言葉と文化／不登校／生活習慣病について アンケートを取る		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話（シャドーイング）/プレゼンテーション（3）	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	言葉と文化／不登校／生活習慣病について まとめる		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話（シャドーイング）／プレゼンテーション（4）	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	まとめる（PPT）		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話（シャドーイング）/プレゼンテーション（5）	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	発表		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	口頭発表ができるようになる 会話（シャドーイング）/プレゼンテーション（6）	使用教材から適宜抜粋	シャドーイングの練習
		各コマにおける授業予定	振り返り／他のグループへのコメント		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	群読（詩の音読）（1）／プレゼンテーション（7）	使用教材から適宜抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて（1）		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	群読（詩の音読）（1）／プレゼンテーション（8）	使用教材から適宜抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて（2）		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	群読（詩の音読）（1）／プレゼンテーション（9）	使用教材から適宜抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて（3）		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	群読（詩の音読）（1）／プレゼンテーション（10）	使用教材から適宜抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて（4）		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	群読（詩の音読）（1）／プレゼンテーション（11）	使用教材から適宜抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて（5）		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1年制)		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	会話・発音(上級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	501教室
担 当 教 員	中村 絵	実務経験とその関連資格	2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。			

《授業科目における学習内容》

進学後や就職後に必要な口頭発表ができるようになる。そのために必要なまとまった内容を聞く、伝える、そしてそのために必要な表現も学ぶ。卒業研究・課題研究発表会の参加に向けて、考える力も養う。

《成績評価の方法と基準》

a. 素点(定期試験):70%
b. 出席評価点　　:20%
c. 平常評価点　　:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『日本語上級話者への道』(スリーエーネットワーク)、聴解・発表ワークブック(スリーエーネットワーク)
シャドーイング『日本語を話そう』中上級編(くろしお出版)から抜粋、オリジナルハンドアウト使用

《授業外における学習方法》

普段から日本語で考え、日本語で話そうという気持ちを持ってください。どんな言葉の聞き取りが苦手なのか、どんなタイプの言葉をよく間違えるのか、自分の弱点を知っておくことは大切です。

《履修に当たっての留意点》

後半は将来の就職を考え、面接練習も行う。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	群読(詩の音読)(2)／プレゼンテーション(12)	使用教材から適宜抜粋	グループワーク
		各コマにおける授業予定	卒業研究・課題研究発表会に向けて(6)		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	就職に向けての準備(1)	学生用履歴書 ジョブカード(留学生用)	ジョブカード記入
		各コマにおける授業予定	ジョブカードを使用しての自己分析(1)		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	就職に向けての準備(2)	学生用履歴書 ジョブカード(留学生用)	履歴書を書く
		各コマにおける授業予定	履歴書を書く		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	就職に向けての準備(3)	学生用履歴書 ジョブカード(留学生用)	面接の問題の答えを考える
		各コマにおける授業予定	面接(1)		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	就職に向けての準備(4)	学生用履歴書 ジョブカード(留学生用)	
		各コマにおける授業予定	面接(1)		